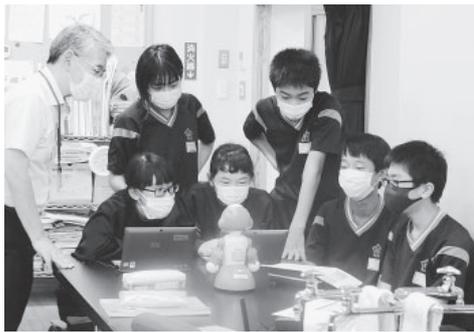


英語でSotaをプログラミング 地域紹介テーマに

台東区立上野中学校 NTT東日本 セッターリンクスと実証

プログラミング教育を通じた問題発見・解決能力の育成が求められている。小学校でプログラミング教育が必修化され、中学校では技術・家庭科でのプログラミング内容が拡充し、かつ双方向性のあるプログラミング体験が求められている。さらに高等学校では「情報I」が必修化。全ての生徒がプログラミングを学ぶようになる。大学では「情報」が入試の出題科目になる。そこでNTT東日本とセッターリンクスは、「生活や社会における問題を解決する」力の育成や現代社会で使われている技術に対する理解を深め、興味を持つこと等を目的に、「コミュニケーションロボット「Sota」を使った実証授業を台東区立上野中学校で行った。

情報端末画面上の実行、喜んでるようにも。プログラミング教育が必修化され、中学校では技術・家庭科でのプログラミング内容が拡充し、かつ双方向性のあるプログラミング体験が求められている。さらに高等学校では「情報I」が必修化。全ての生徒がプログラミングを学ぶようになる。大学では「情報」が入試の出題科目になる。そこでNTT東日本とセッターリンクスは、「生活や社会における問題を解決する」力の育成や現代社会で使われている技術に対する理解を深め、興味を持つこと等を目的に、「コミュニケーションロボット「Sota」を使った実証授業を台東区立上野中学校で行った。



何度も繰り返し英語で声掛け Sotaに認識されると大喜び

何度か日本語で対話するプログラミングを練習

■当初は譲り合いながら次第に積極的に発音

講師はプログラミングツールを開発したセッターリンクスが担当した。

1台はSotaをプログラミングする

2台の情報端末を用意

「学び」を地域に活かす

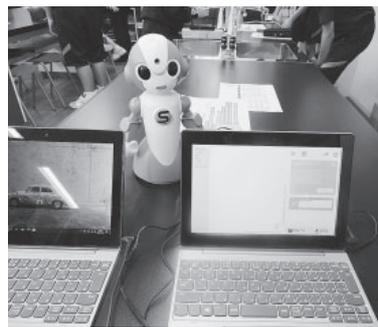
何度か日本語で対話するプログラミングを練習

■当初は譲り合いながら次第に積極的に発音

講師はプログラミングツールを開発したセッターリンクスが担当した。

1台はSotaをプログラミングする

2台の情報端末を用意



プログラミング用端末と検索用端末、Sotaを各班に用意

何度か日本語で対話するプログラミングを練習

■当初は譲り合いながら次第に積極的に発音

講師はプログラミングツールを開発したセッターリンクスが担当した。

1台はSotaをプログラミングする

2台の情報端末を用意

何度か日本語で対話するプログラミングを練習

■当初は譲り合いながら次第に積極的に発音

講師はプログラミングツールを開発したセッターリンクスが担当した。

1台はSotaをプログラミングする

2台の情報端末を用意

何度か日本語で対話するプログラミングを練習

■当初は譲り合いながら次第に積極的に発音

講師はプログラミングツールを開発したセッターリンクスが担当した。

1台はSotaをプログラミングする

2台の情報端末を用意

デスクトップ型のロボット「Sota」はロボットクリエイター高橋智隆氏デザインによる愛嬌にあふれたロボットだ。高精度マイク、スピーカ、顔認識ができるカメラを持ち、目の周囲のLEDの色で感情を表す。セッターリンクスはSota用のプログラミングツールを開発。対話内容や動作をScreenshotのようなプログラム型でプログラミングでき、日本語や英語も多言語に対応している。様々なロボットがある中、Sota向けのプログラミングツールを開発した理由について、同社担当は「プログラミング体験を社会と関わりを持つきっかけにしたい」と話している。

プログラミング学習の成果を地域に

かけとし、その学びを社会還元する仕組みとあった。Sotaは、既に地域社会で活躍している。平らな場所にある荒川区立第三日暮里小学校5年生では、「防災教育」で、学校が避難所として使用された際に活躍する案内ロボット作りを挑戦。いすみ市立岬中学校では、技術科の授業で「いすみ市よいところを観光客に紹介する」ロボット作りを、北海道鹿追町立菟小中学校2年生は生活科で、クイズ作りを通して、プログラミング体験を行った。学校案内や行事案内等を児童生徒がプログラミングし、学校の玄関に設置しておく等の活用もできそうだ。